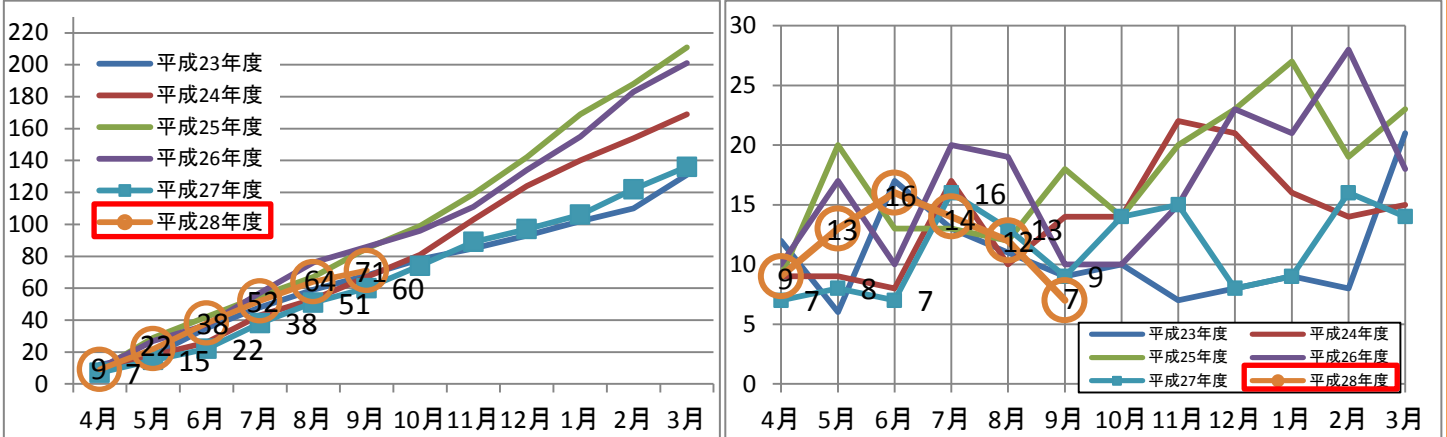


平成28年度請負事故件数速報(暫定値 4月~9月)

■年度別工事等事故発生件数(累計)

■月別工事等事故発生件数



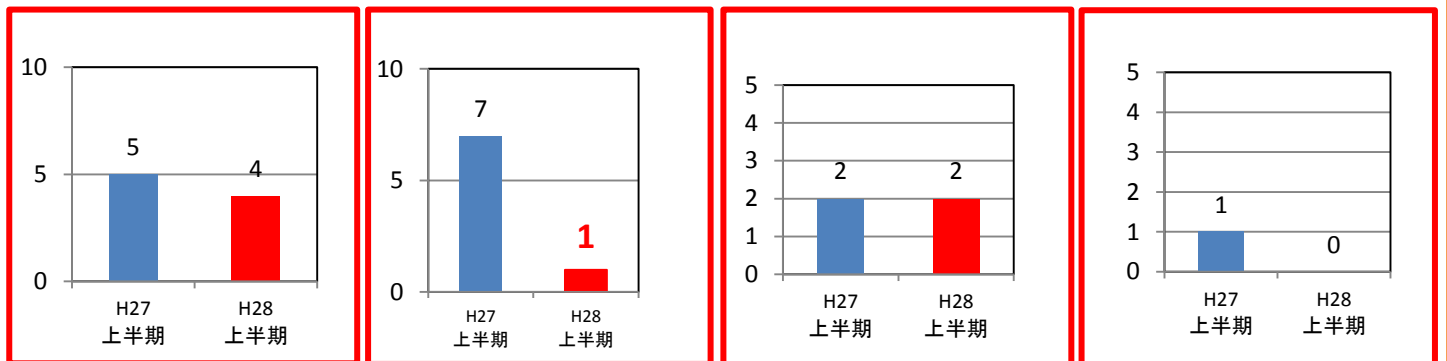
■工事等事故防止重点対策6項目における事故発生件数 (H27-H28上半期比較:速報値)

地下埋設管及び施設ケーブル

架空線

高所作業箇所からの墜落

資材・仮設材及び工具の飛来落下

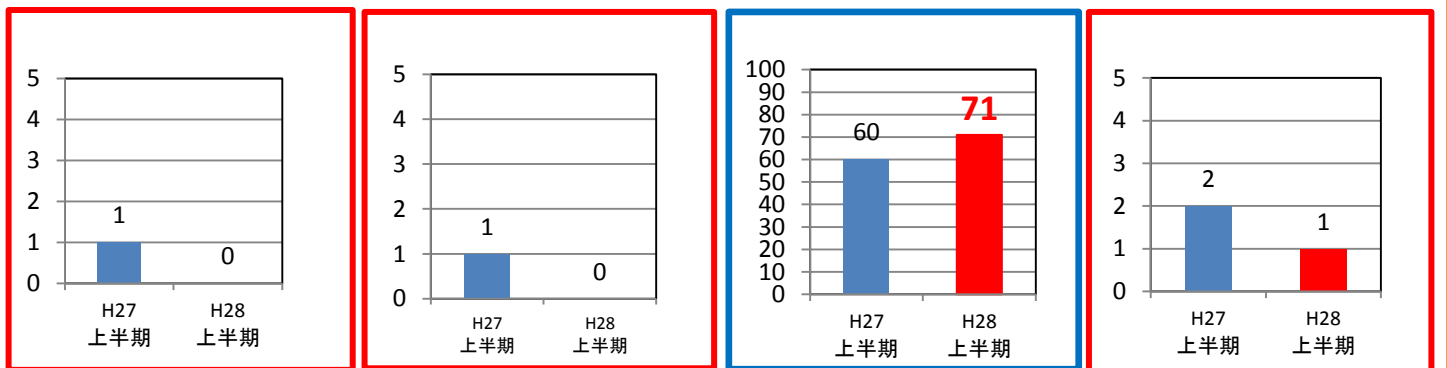


重機の転倒・接触

吊り荷と作業員との接触

工事等事故発生件数

参考:草刈り作業における飛び



【平成28年度工事等事故防止重点対策項目における事故発生の割合(上半期のみ)】

上半期における工事等事故発生件数は71件であり、昨年度の上半期と比較し、大幅に増加していますが、工事等事故防止重点対策項目のうち地下埋設管4件(6%)、架空線1件(1%)、高所墜落2件(3%)、飛来落下0件(0%)、重機の転倒・接触0件(0%)、吊り荷との接触0件(0%)となっており、全体で8件発生し、**工事等事故防止重点対策項目に係る事故は発生件数全体に対し、約12%となり、昨年度(上半期)の約31%から大幅に減少している状況です。**

一方、車両に関する軽微な事故が増加し、全体数を押し上げています。

個々の重点項目につきましては、「**架空線に対する事故**」が大幅に減少しています。

受発注者双方の日頃の取組みの成果及び本年4月18日に発出した事務連絡「地下埋設物等(架空線含む)の事故防止における特記仕様書の記載について」(別添参照)の成果が現れているものと考えております。発生した1件につきましては、作業前の現地調査及び関係機関との協議不足、現地での注意喚起の未実施、監視員の確認ミス等の安全管理不足が原因となっています。



近畿管内で死亡事故が発生！！

今年度、2件目の死亡事故が発生いたしました。
詳しい内容につきましては、現在、調査中ですので、速報を掲載いたします。

事故概要

ハンドガイド式草刈機で集草作業中、機械が法面で停止しているのを他の作業員が目撃していた。
作業員が戻ってこないのを、再度見に行くと、先ほど見かけたままの状態でも停止しており、エンジンがかかったままだった。
作業員を探したところ、機械の下敷きになっているところを発見した。
機械を移動し、作業員を救出。病院に搬送されたが、死亡が確認された。

原因については、現在調査中です。



作業前の対策(抜粋)

- ◎ ・作業範囲内に障害物(ゴミやケーブル、距離標など)がないか確認し、取り除けないものがある場合はわかりやすい目印「ポールやリボンなど目立つもの」を取り付け、倒れないようにしっかりと固定し、障害物の周りを手刈りする。
・距離標等の障害物については、事前に台帳や管理図等により位置の確認を行なう。

肩掛式草刈り機の注意点

- ◎ 道路、民家等の近接箇所では必ず飛散防止ネット等を配置して作業を行う。また、車両や通行人が近づいたときは作業を中断する。
対策につきましては、あんぜん第261号(平成28年5月号)に掲載していますので、参考にして下さい。

昨年度も他地整で、機械の下敷きになって作業員の方が亡くなるという事故が発生しており、平成27年9月発行(第253号)の「ニュースレターあんぜん」で、事例を掲載いたしました。

死亡事故以外に、距離標の破損事故も複数発生しています。再度、過去の事例を参考にさせていただき、草刈時の事故を防止することが重要です。

注意!! 工事資機材の盗難も複数発生!!

工事資機材の盗難も複数発生しています。

いずれも、出社、もしくは作業開始時に発見しております。夜間の巡視の際には異常がなく、わずかな隙をねらった盗難であると考えられます。

年末年始はもちろんのことですが、平日も施錠及び巡視等をしっかり行なうことが重要です。また、日中についても不審者が入らないように、仮囲い等で囲ったり、警備員を常駐させるなどの対策も必要です。終業の際は、外部から高価な資機材が見えないよう工夫することも有効です。

今年度に入り、2件の死亡事故が発生しました。まだ、事故原因について調査中の事故もありますが、これから年末に向かっては通常期よりも忙しくなり、ヒューマンエラーを始めとする事故が発生しやすくなります。安全な職場環境をつくるために、再度、安全に対する意識を高め、注意して作業を行うことが求められます。